令和６年度

大野小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○「チャイムスタート」で授業を始め，自主的に学習に取り組む児童の育成
○根気よく丁寧に取り組む児童を育成し，基礎・基本の確実な定着を図る

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 鈴江　佑佳	委員　校長・総括：宮越　千佳 教頭・総括補佐：山﨑　寛子 教務主任：小川　英子 研修主任：谷　篤彦 特別支援コーディネーター：梶尾　茂美

校長
宮越　千佳

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】
研修での教員からの報告や管理職による授業参観等，様々な機会に取組状況の把握を行う。

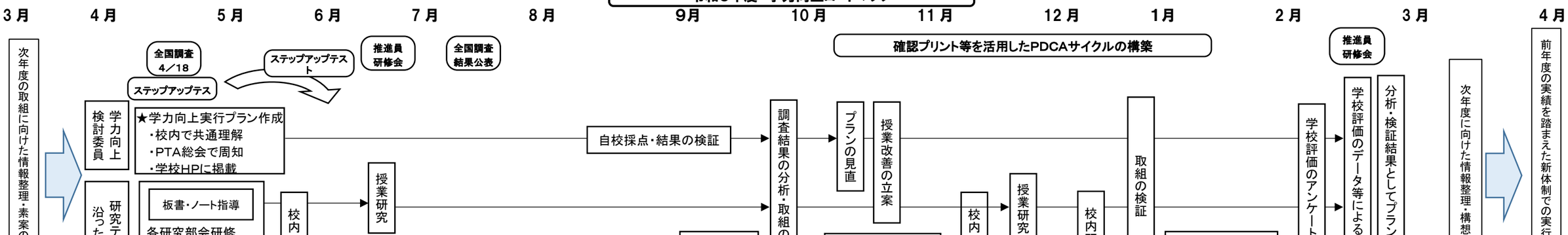
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや音読・計算などの基礎的な力がついてきている。 ●学力差が大きく，二極化している学年もある。特に，経験したことのない問題に対応する応用力には差が大きい。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・読書に親しみ，豊かな言語力を身につける。	・ドリル学習アプリを活用し，補充学習を効果的に行う。 ・定期的に漢字や計算等の小テストを実施し，一人一人の習熟度を把握する。 ・学年末に漢字検定・算数検定を実施し，定着度を確認する。	・学習アプリを活用する頻度が増えている。それにより，児童の意欲や学習の効率が高まっている場面が見られる。	・補充学習としてドリル学習アプリを効果的に活用し，学習に対する意欲や学習の効率が高まった。 ・小テストを定期的に実施し，一人一人の習熟度を把握できた。また、学年末には漢字検定を実施し，定着を確認することができた。	・ドリル学習アプリや小テストを継続し，基礎・基本の定着につなげる。 ・それぞれにあった苦手を克服できるようにする。（個別最適化）

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○提示された課題や質問に対して，意欲的に発表し，真面目に取り組んでいる。 ●自分の考えを文章に書いてまとめたり，順序立てて説明したりすることに課題がある。	・思考ツールを使って考えたり判断したりすることができる。 ・自分の言葉で，考えやその理由を話したり書いたりすることができる。	・ホワイトボードや学習支援アプリの活用を充実させ，全ての教科において，自分の考えを表現させる時間を設ける。 ・話し合い活動や作文指導を適宜行い，意見のまとめ方や説明の仕方を指導する。	・学習支援アプリなどの活用が増え，ホワイトボードを使う機会が少なくなった。場面に合った使い分けをしていきたい。	・ホワイトボードやタブレットを学年に応じて使い分けながら活用し，自分の考えを表現させる時間を設けることができた。 ・体験活動後に感想を書くなど機会を捉えて作文指導を行うことができた。	・作文指導において書く力が身についてきた児童がいる一方，不得意な児童も見られる。書く活動を増やしていきたい。 ・タブレットや思考ツールの各学年の目標（情報活用能力）を系統立てる。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○落ち着いて生活し，課題や自主学習に意欲的に取り組もうとしている。 ●難しいと思う課題を避ける傾向があり，最後まで諦めずに取り組もうという意識に乏しい。	・課題や自主学習に進んで取り組み，目標を達成する喜びを感じるとともに，学ぶ楽しさを感じることができる。 ・学習したことを実際の生活の中で生かそうとしている。	・授業に直接体験を取り入れたり，児童用デジタル教科書を活用したりして，楽しく分かりやすい授業を行う。 ・毎時間，学習のめあてと振り返りを確認し，自己評価力をつける。 ・自主学習リレーやポイント制を取り入れる等，意欲を高める工夫をする。	・児童用デジタル教科書を積極的に活用して授業を行っている。	・デジタル教科書を効果的に活用して授業を行うことができた。 ・自主学習は学年によって取り組みに差が見られたが，ポイント制を取り入れることで意欲を高められた学級もあった。	・デジタル教科書を今後も効果的に活用し，わかりやすい授業を行う。 ・自主的に学習に取り組めるような方策を考えていきたい。 ・全員が達成感をもてるような取組を考えたい。

令和6年度　学力向上ロードマップ